

学びのススメ

入試問題から読み取れること



今週、県立Ⅰ期選抜が行われ、本校からも多くの生徒が入試に臨みました。先日、発行された「進路だより」にⅠ期の入試内容が載せられていましたが、目を通しましたか？

Ⅰ期では、主に面接と作文・小論文が課せられます。（実技やパーソナルプレゼンテーションなどを課す学校もあります。）

面接においては、各教科の学習の成果を問う問題が出されることが多いのですが、今年の傾向を見ると学習の成果を問う問題を増やした高校が複数あったようです。ここで考えなくてはいけないのは、「高校側の意図」です。Ⅰ期では5教科の学力検査は行いません。選抜資料は基本的に、「調査書」「志願理由書」「面接（学習の成果を問う問題含む）」「作文・小論文」です。そのなかで、特に学習の成果を問う問題を増やしたということは、各教科の学力を重視したいということの表れだと思います。



面接の受け答えや作文等は訓練すれば短期間に実力を伸ばすことができます。しかし、教科の学力はそういう性質のものではありません。

小平中学校の傾向として、県立を受験する人のほとんどがⅠ期選抜を希望しているということが挙げられます。だとすれば、一朝一夕にはついていけない各教科の学力をしっかりと身に付け、定着させていく必要があるということです。3年生はこのことを身をもって感じてきたと思いますが、1・2年生も今から準備をしておかなければいけないということが分かってもらえると思います。



次に、作文・小論文です。なぜ入試でこれらの課題が出されるのか。それは、受験生の「人間性」を見たい、「意見を筋道立てて考える力」「意見を第三者に的確に伝える力」を見たいということの表れだと思います。

作文・小論文を書くには、書く技術とネタ（材料）が必要になってきます。今年のⅠ期受験者には、これらの技術を高めたり、ネタを増やすため、たくさん文章を書いてもらいました。その結果、大分、書く力が向上してきたように思います。これも早めの対策が必要です。

中学校のゴールには入試が待っています。その時になって準備をしようとしても無理があるのが現状です。日々の学習の積み重ねが大事だということです。